

目線を変えれば別世界が広がる日本株



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 日本株は目線を変えると別世界に

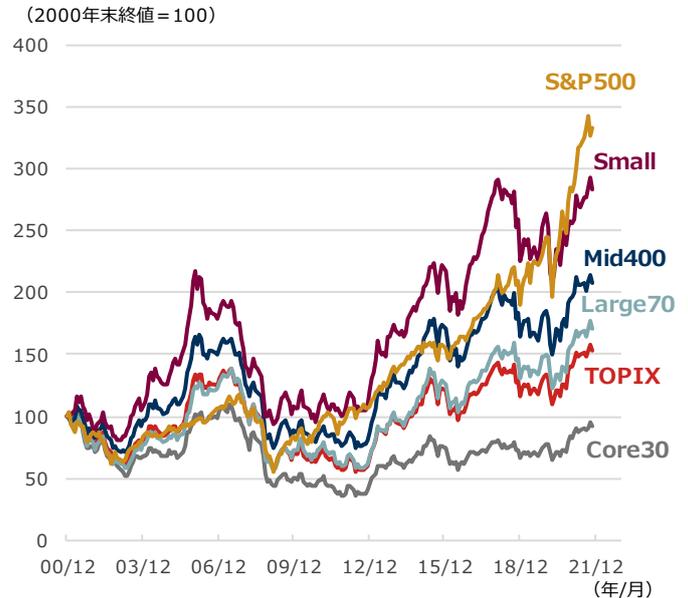
2021年も米国株は史上最高値を更新する流れが続いている一方、日本株はバブル崩壊前の高値を依然として抜くことはできていません。そのため日本株は米国株と比べてパフォーマンスが冴えないというイメージを持っている投資家も多いとみられます。ただ、代表的な指数の動きだけをみて、本当に日本株は投資対象として魅力が低いといえるのでしょうか。

日米株価動向を比較すると、確かにTOPIX（東証株価指数）は米S&P500と比べて上昇率が見劣りする結果となっています（右上図）。しかしながら、TOPIXを規模（時価総額・流動性）で区分した同ニューインデックスシリーズをみると、日本を代表する主力株30社で構成するCore30の低迷がTOPIXの足かせとなっている半面、Large70やMid400、SmallはいずれもTOPIXを上回るパフォーマンスとなっています。とりわけ、東証1部全体の8割近い銘柄で構成されるSmallの動きには目を見張るものがあります。近年こそS&P500に上昇率が劣後していますが、2001年以降、ほとんどの局面でSmallがS&P500を上回ってきました。

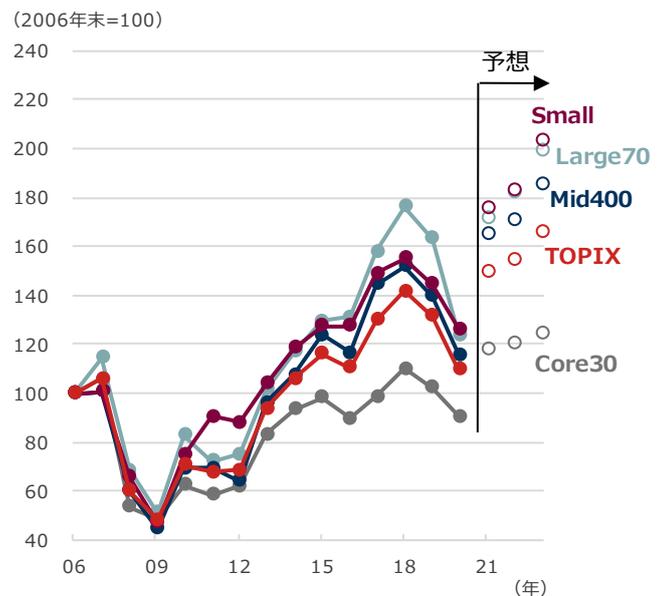
ポイント② TOPIXは指数別でEPSに格差

株価の先行きを占う上で重要な要素となるEPS（一株当たり利益）はどうなっているのでしょうか。データを確認すると、指数別で格差が出ており、Core30のEPSの伸びは限定的ですが、その他の指数のEPSはTOPIXを上回っています（右下図）。もちろんCore30構成銘柄でも利益成長・株高となっている銘柄も多数あることは事実です。ただ、TOPIXから目線を少し変えて日本株をみると、別世界が広がっており、日本株には大きな投資機会が存在しているといえるのではないのでしょうか。

TOPIXニューインデックスシリーズとS&P500



TOPIXニューインデックスシリーズ12か月先予想EPS



*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一の見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆しないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。